

第2節 志木市における方形周溝墓の分布について

志木市における方形周溝墓の第1号の発見は、昭和63（1988）年の発掘調査で検出された西原大塚遺跡第8地点（尾形・佐々木 1990）の1号方形周溝墓である。翌年の西原大塚遺跡第11地点（尾形・佐々木 1991）でも1基が追加され、その後、西原大塚遺跡では、平成5（1993）年以降に西原特定土地地区画整理事業に伴う大規模な発掘調査が本格的に開始され、方形周溝墓は現時点で約30基が検出され、市内では最も方形周溝墓が集中する地区であることが判明している。

その他の地区では、平成3（1991）年に市場裏遺跡第2地点（佐々木・尾形 1996）で2基、同遺跡第3地点（尾形 1993）で1基の方形周溝墓が検出され、西原大塚遺跡以外での初めて検出例となる。

平成6（1993）年には、新たに田子山遺跡第32地点（尾形・佐々木・深井 1996）で方形周溝墓1基が検出されている。この遺跡では、昭和63（1988）年の第1地点（尾形・佐々木 1990）や平成2（1990）年の第10地点（佐々木・尾形 1996）、平成6（1994）年の第31地点の調査から住居跡が多数検出されているため、住居域と墓域の境界区分が判明しつつあると言える。

最新では、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点（尾形・深井・青木 2007）で方形周溝墓1基が検出されたが、この方形周溝墓は方台部から6本程の柱穴を伴うものと考えられ、通常検出される方形周溝墓とは異例のものであり、今後の検出例の累積を待って検討されるべき事項であろう。

そして、平成18年（2006）年には、本報告の1号方形周溝墓があるように中道遺跡での第1号の発見となった。

以上、簡単に市内における方形周溝墓の分布を見てきたが、当初は西原大塚遺跡のみの検出例であったものが、現時点では、西原大塚・新邸・中道・市場裏・田子山遺跡の5遺跡まで増えるに至っている。このことから、従来から知られている弥生時代後期末葉から古墳時代前期の集落跡と方形周溝墓の分布は、柳瀬川・新河岸川右岸流域に1つの単位的なまとまりをもって点在していることが明らかになってきたと言えるであろう。今後は、各遺跡での集落域と墓域の関係を細かく分析することにより、当時の歴史をさらに深く追究したいと考えている。

【謝辞】

最後に、今回のまとめにあたって、中山真治氏にご教示頂いた。厚く御礼申し上げます。